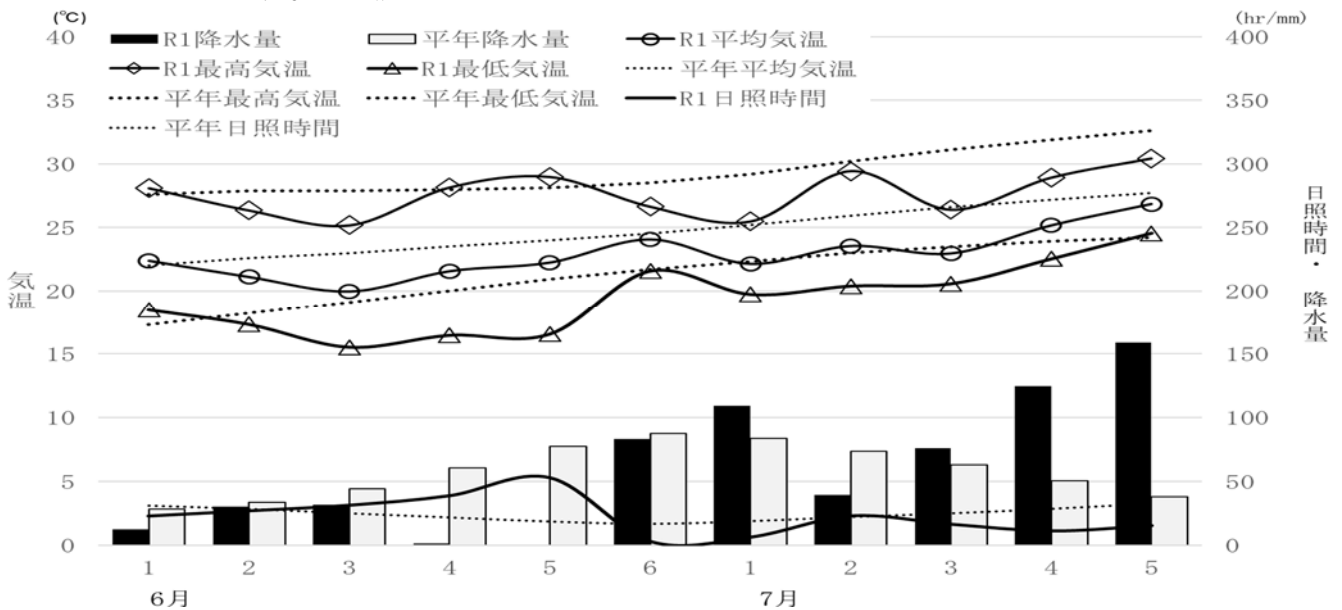


# 令和元年お茶づくり技術情報 (No.8)

2019年(令和元年)8月2日  
佐賀県茶業技術協会  
佐賀県茶業試験場

## 1. これまでの気象概況



- 1) 6月の気象は、平均気温が低かったものの、晴天の日が多く、降水量が少なかったため日照時間は平年より多かった。7月は2半旬を除いて平年以上の降水量となり、特に5半旬の降水量は159mmであった。そのため、7月5半旬までの日照時間は平年より少なかった。

## 2. 今後の気象

向こう1か月の天候の見通し  
九州北部地方 (7月27日~8月26日)

福岡管区气象台

### 予報のポイント

- 太平洋高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の降水量は少なく、日照時間は多いでしょう。また、向こう1か月の気温は平年並か高いでしょう。

### 3. 今後の管理

- 1) 今後、平均気温は高く、降水量が少ない見込みです。下記に示すような被害を受けやすい茶園では、被害低減対策が必要と思われます。葉色や葉の艶などの園相や、土壌水分の変化などをよく観察し、早めに対策を行うことが重要です。

#### (1) 干ばつ被害を受けやすい茶園

砂質土で保水性が低い。  
耕土が浅く根の張りが悪い、あるいは根量が少ない。  
日当たりが良すぎる、風通しがよいなどの環境条件。  
裸地が多い幼木園や欠株などにより隙間が多い。  
腐植が乏しい。

#### (2) 事前対策

畝間からの水分の蒸散を抑えるため、裾刈りを控え、光が当たらないようにする。  
施肥は適期に施用し、施肥後の中耕を行う。  
病虫害防除を徹底し、葉への被害を抑える。  
稲わら等有機物の施用により地表面からの水分の蒸散防止を図る。  
pF2.3 以上になったら灌水が必要と判断する。  
8月1日 17:30 時点の試験場内圃場に設置している pF 計の値は、2.1~2.2 である。  
畝間を深さ 20cm 程度まで掘り、土が乾燥していたら灌水が必要と判断する。

#### (3) 干ばつ時の対応

畝間の耕起、深耕作業を見合わせる（状況によっては片側ずつ実施する）。  
施肥は降雨前に行う。

#### (4) 灌水での対応

土壌が乾燥する前に実施する。  
夕方の時間帯に行う。  
スプリンクラーや灌水施設がある場合は、20t/10a/日を7日おき、  
または4t/10a/日を2~3日おきに実施する（目安）。

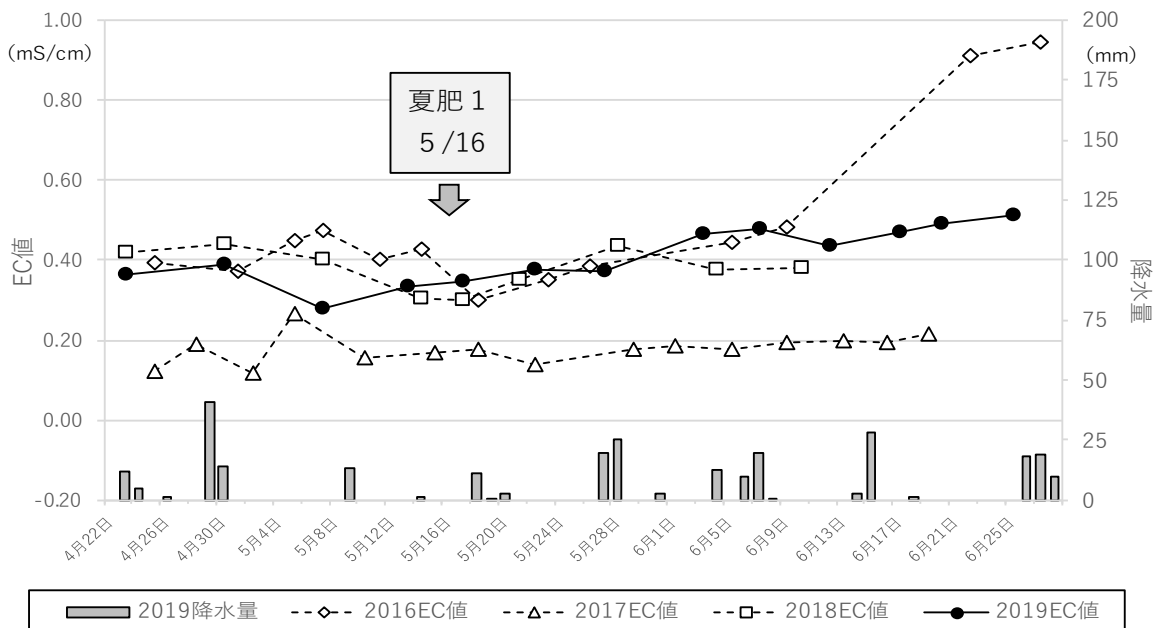
#### 参考：干ばつ状態になると

葉裏の気孔が閉じ、水分蒸散を抑制 ⇒ 炭酸ガスの取り込みが減少し光合成抑制  
⇒ 樹体内温度上昇 ⇒ 葉焼けの発生（細胞の崩壊） ⇒ 茎・細枝の水分減少  
⇒ 落葉・枝枯れの発生 ⇒ 次年度産茶の収量・品質低下

## 4. 病害虫対策

病害虫防除については、『平成 31 年度佐賀県施肥・病害虫防除・雑草防除のてびき』を参照してください。

○試験場内作況調査園の土壌 EC 値と降水量の推移（2016-2019 年）



- ・二番茶生育期間中の土壌 EC 値は、前年並みで推移した。
- ・7月の降水量 (533.5mm) が平年 (390.9mm) に比べて多かったことから、最新 (7/30 測定) の作況調査園の土壌 EC 値は、0.24 と低かった (目標値は 0.4~0.6)。